



熊は、いない

シネマ・デ・アエル マンスリーセレクト上映作品 #2
『熊は、いない』—2022. イラン. 監督: ジャファル・パナヒ

© 2022_JP Production_all rights reserved

2026 11/14 SAT, 11/15 SUN

男と女は
会おう／別れる



トニー滝谷 4Kリマスター版

シネマ・デ・アエル マンスリーセレクト上映作品 #1
『トニー滝谷』4Kリマスター版 —2004. 日. 監督: 市川準

© CONTENTS POTENTIAL Inc.

2026 11/14 SAT, 11/15 SUN

男と女は
生きる／死ぬ

問い合わせ

tel: 090-8582-4940 (シネマ・デ・アエル プロジェクト)
cinema.de.aeru@gmail.com

主催: シネマ・デ・アエル プロジェクト／共催: 三陸みらいシネマパートナーズ、有限会社コンテンツ計画、NE-PROJECTION／後援: 宮古市、宮古市教育委員会／特別協力: 東屋不動産

CONCEPT

シネマ・デ・アエルは岩手県宮古市の築約 200 年の元酒蔵 (国登録有形文化財: 旧東屋酒造店) をセルフリノベーションした “特設” のコミュニティシアターです。上映・音響設備、グランドピアノ、カフェラウンジ、ブックコーナー、軒下オープンスペースを完備し、シアタースペースでの定期・企画上映のほか、文化・交流プログラムを実施しています。ご利用、連携企画のお問い合わせは cinema.de.aeru@gmail.com まで。プロジェクトメンバーも随時募集中!

本事業は宮古市元気な地域づくり補助金の助成を受けています。

ACCESS

シネマ・デ・アエル
(東屋さんの「蔵」—国登録有形文化財: 旧東屋酒造店)

〒027-0089
岩手県宮古市本町 2-2

お車でご来場の方へ

東屋駐車場、または近隣駐車場をご利用ください。
上映会や関連プログラムにご参加の方は東屋駐車場を無料 (プログラム +1 時間まで) でご利用いただけます。スタッフがご案内する専用の駐車スペースをご利用下さい。



CINEMA DE AERU マンスリーセレクト

シネマ・デ・アエルの担当セレクトアーが厳選したおすすめ映画を毎月上映する定期プログラム。参加型のアフタートークや、ゲストプログラムなどお楽しみ企画と一緒にお届けします。



CINEMA DE AERU

映画で逢える 映画と出会う

2026. 11



CINEMA DE AERU

映画で逢える 映画と出会う

2026. 11



小説が先でも、映画が先でも
「世界」があなたを待っている

INTRODUCTION

村上春樹の短編小説「トニー滝谷」（文藝春秋刊「レキシントンの幽霊」所収）を、市川準監督がメガホンを取り、2005年に映画化した『トニー滝谷』。その静謐で美しい画作りが高く評価され、"伝説的な一本"として語り継がれてきた本作が、公開から21年の時を経て4Kリマスター化された。

（『トニー滝谷 4Kリマスター版 公式HPより』）

ここがおすすめ

本作品は、初公開から20年強を経て、リマスター版が製作されました。その間に、原作の村上春樹は、毎年ノーベル文学賞受賞を期待される世界的な作家となり、監督の市川準と音楽の坂本龍一は、惜しまれつつ亡くなりました。しかし、スクリーンに映し出される映画は、そんな時の流れを感じさせず、イッセー尾形と宮沢りえが白い空間に佇み、坂本龍一のピアノが寄り添います。

作品から受ける印象は、人それぞれかもしれませんが、20年ぶりに観た私の耳には、坂本龍一のピアノがよりしみ入りました。彼の訃報から間がないせいか、私が少し「大人」になったせいか、理由は分かりませんが、また20年後に観たら、違う感情を抱くのではないのでしょうか。映画をご覧になった後に、皆さんの感想をお聞かせください。

（プロジェクトメンバー 大垣 隆義）

会場：シネマ・デ・アエル（東屋さんの「蔵」—国登録有形文化財：旧東屋酒造店） 〒027-0089 岩手県宮古市本町2-2

各回定員：30名 鑑賞料(各作品ごと)：一般 ¥1,500 / シニア(60歳以上)・学生・障害者(付添1名まで) ¥1,200 / 中学生以下 ¥1,000

チケット：先着順

2026 11/14 SAT, 11/15 SUN

監督・脚本：市川準／原作：村上春樹著『トニー滝谷』（「レキシントンの幽霊」所収）／音楽：坂本龍一／撮影：広川泰士／主演：イッセー尾形、宮沢りえ／ナレーション：西島秀俊／2004年／日本／配給：アンブラグド
© CONTENTS POTENTIAL Inc.

監督・脚本・製作・主演：ジャファル・パナヒ／撮影：アミン・ジャファリ／出演：ナシエル・ハシェミ、ワヒド・モバシェリ／2022年／イラン／配給：アンブラグド
© 2022_JP Production_all rights reserved

TIME TABLE

11.14 [土]

10:30-11:50 『トニー滝谷』上映

13:00-14:50 『熊は、いない』上映

15:20-16:40 『トニー滝谷』上映

17:10-19:00 『熊は、いない』上映

感想シェアトークやってます

ゲスト参加回以外の上映後には、シネマ・デ・アエル名物の背景解説&感想シェアトーク（2、30分程度）を実施します。感じたこと、思いをぜひシェアしてください（参加自由です。聞いただけ参加も大歓迎!）。時にはサプライズゲストの登場も。

11.15 [日]

10:30-11:50 トニー滝谷』上映

13:00-14:50 『熊は、いない』上映

15:20-16:40 『トニー滝谷』上映

17:10-19:00 『熊は、いない』上映

deaeru TOPIC シアターからの情報

岩手沿岸とイラン

シネマ・デ・アエル11月のセレクト「熊は、いない」はジャファル・パナヒ監督によるイラン映画。パナヒ監督は、イランの人々を取り巻く現実を浮き彫りにする作風で知られる。

遠い国の出来事のように思うかもしれないが、岩手日報ONLINE(2026/04/07)の記事によると、岩手県山田町とイランの繋がりが紹介されている。

今から15年前、東日本大震災発生の一ヶ月後。山田町ではイラン大使館関係者らによる炊き出しが行われていた。2003年イラン南東部の大地震の際に日本から支援を受けたことへのお返しだったという。この時山田町を訪れた、画家のパハレ・アブドラヒヤンさん(当時のアラグチ駐日イラン大使夫人)は、被災地の復活を願い「不死鳥」と題した自身の絵画を寄贈した。中東情勢の緊迫を受け、今年3月、平和を祈り「不死鳥」を役場内で展示することが決まった。実は災害支援で繋がりのあったイラン。映画を入り口にして、考えを巡らせてみては如何だろうか。



© 2022_JP Production_all rights reserved



国に目をつけられた男は、
それでも生きていく

INTRODUCTION

長編デビュー作『白い風船』(95)で第48回カンヌ国際映画祭カメラドール(新人監督賞)を受賞して以来、世界三大映画祭ほか主要映画祭にて高く評価され続けるイランの名匠ジャファル・パナヒ監督作。

市井の人々の日常を通してイラン社会の置かれたリアルな現実を描き続けるも、政府から2010年に”イラン国家の安全を脅かした罪”として20年間の映画制作禁止と出国禁止を言い渡されたパナヒ監督。それでも抑圧に屈せず様々な方法で映画を撮り続け、2010年以降に本作を含めた6本の長編は全て極秘に撮影。あらゆる制約を回避し自身を映画の題材にすることで、ミニマムながら工夫と発想に富んだ豊かな映画を作り続ける、世界で最も勇敢な映画監督として知られている。

（『熊は、いない』公式HPより）

ここがおすすめ

私は、長編デビュー作『白い風船』にキュンとなって以来、パナヒ監督の作品を見続けています。パナヒ監督は、元々、イラン映画の巨匠である故アッバス・キアロスタミ監督の現場等で、映画制作を学んだため、初期の作品は、キアロスタミ監督の影響を強く感じますが、やがてイラン政府からにらまれ、政府（権力）と彼の対立を映画で描くようになります。

最近の彼の監督作では、それがどのように描かれているか、大げさではなく、世界中が固唾を飲んで見守っています。特に、本作品では、彼自身が主演を務めることによって、虚実の皮膜が透けて見えるようで、どこまでが事実なのかというスリルに引っ張られます。しかし、本作をすぐれた「映画」たらしめているのは、事実を柔らかに包んでいるかのような外側だと思うのです。

（プロジェクトメンバー 大垣 隆義）

NEXT 次回のマンスリーセレクトは…

12月は年末スペシャルプログラム！
いつものマンスリーより増量して、4日間かけ3〜4作品を上映！

※ 日程、作品は調整中。追ってホームページにて告知します。

最新情報はSNSと公式HPをチェック！

作品やゲストの最新情報などをご案内しています。



HP



Facebook



Instagram



X